

20代であった。平成20年第1～8週の累積患者数でも、10代が最多でおよそ半数を占め、次いで20代が多く2割を超えた⁹⁾。これら10代、20代に多くの患者が発生した要因として、幼児期のワクチン接種率が低いことに加えて、麻疹患者の減少により野生株ウィルスにさらされる機会が乏しいためワクチンを接種しても獲得した免疫が減衰しsecondary vaccine failure (SVF)となることが挙げられている。本学においても、抗体陰性者の約半数は過去に1回のワクチン接種歴がありSVFが疑われた。なかでも20代では抗体陰性者の7割以上にワクチン接種歴があり、SVFの影響がより大きいと思われた。

成人の麻疹が増加した平成19年、20年の流行においても、50歳以上の患者は少なく全体の1%以下である。この年代は、まだ麻疹患者が比較的多かった時代を経験しており、麻疹に罹患して免疫を獲得していることが多いと考えられるため、今回の検査でも抗体陰性率は低いであろうと筆者は予想したが、実際には50代の抗体陰性率は40代とほぼ同程度で、30代と比べてもそれほど大きな違いはなかった。今後の麻疹対策を進めるうえで、中高年以上も軽視はできないと思われた。

平成20年4月から5年間、中学1年と高校3年に麻疹ワクチンの追加接種が実施されるが、すでに高校を卒業した年代はこの追加接種の対象にならない。大学生であれば大学が実施する抗体検査やワクチン接

種等の対象となるが、すでに大学を卒業した者、あるいは高校を卒業してすぐに社会に出た者はこうした麻疹対策からはずれてしまうため、企業あるいは事業場が職員の健康管理の一環として取り組むべきである。また、向こう5年間に無料の追加接種が実施されるとなれば、対象年齢となる前に自費でワクチン接種を受ける例は皆無に近いと思われ、長ければ4年以上ワクチン接種の追加がなされずに経過することになる。WHOは2012年(平成24年)までに日本を含む西太平洋地域から麻疹を排除する目標を定めており、わが国もようやく麻疹対策に力を入れたところであるが、10代に次いで患者数の多い20代に対策の手が届かない者が相当数いることや、最も患者数の多い10代で4年は麻疹感染のリスクが続くことなど、目標の達成にはさらなる施策が必要であると思われる。

文 献

- 1) 国立感染症研究所感染症情報センター：麻疹の現状と今後の麻疹対策について。平成14年10月
- 2) 国立感染症研究所感染症情報センター：感染症発生動向調査週報 (2007年第8週)
- 3) 国立感染症研究所感染症情報センター：感染症発生動向調査週報 (2007年第51週)
- 4) 国立感染症研究所感染症情報センター：感染症発生動向調査週報 (2008年第8週)

お知らせ

平成20年度 北海道医師会賞の推薦募集開始

北海道医師会では、北海道医師会員であって医学的研究ならびに医事衛生に関し優秀な業績をあげている個人または研究団体の中から選定して、毎年「北海道医師会賞」を贈り、その業績を顕彰しています。

今年度も推薦募集を開始いたします。賞金は20万円。贈呈式は、9月27日(土)に開催する第88回北海道医学大会総会で行われます。また、受賞者には、北海道知事賞が贈呈される予定です。

記

1. 北海道医師会員であって、医学的研究ならびに医事衛生に関する優秀な業績をあげている個人または研究団体が対象です。
2. 応募には、所属郡市または医育機関医師会長の推薦が必要となります。詳細については、所属医師会へお問い合わせ下さい。
3. 推薦締切日 平成20年6月27日(金)

北海道医師会事業第三課

TEL 011-231-1726

FAX 011-252-3233

E-mail: jigyos3ka@m.douji.jp